



協同労働による農事業への挑戦

協同組合グループの一つに日本労働者協同組合連合会がある。ワーカーズコープと言ったほうがわかりやすいかもしれない。「一人ひとりが主人公となる事業体をつくり、生活と地域の必要・困難を、働くことにつなげ、みんなで出資し、民主的に経営し、責任を分かち合」っていく「協同労働」のための協同組合組織である。そのシンクタンクが一般社団法人・協同総合研究所であり、『協同の発見』なる月刊の機関誌を発行している。その最新号七月号で「『自然観』『生命観』を問われる農事業のとりくみ」をテーマとする特集が組まれている▼今、ワーカーズコープは“農事業”に注目し、“農事業”への挑戦を本格化しつつある。ワーカーズコープは二〇一二年から二一年までを対象とする「一〇ヶ年総合戦略」を策定し、その最初の三か年計画の最終年度である一四年度の全国総会で、活動方針の一番目の柱として「FECの自給と循環を基調とする、共生の地域・経済への挑戦」を据えている。これを踏まえ「地域の資源を見直し活かす『里山資本主義』を、協同労働で推進し運動化する」いつかんとしたの農事業である▼一四年一二月八日現在では林業・養蜂も含め五五の現場で農業に取り組んでいることが報告されている。農業就業型、地域づくり型、多機能地域福祉型、農の分野の地域協モデルの四つのモデルを明示しての事業展開を目指す。協同労働による農事業への取組み、その前提としての自然観・生命観の問い直し等、問題意識は本質的で鋭い。協同組合間提携のあらたな領域が開かれつつある。

(土着菌)